

## 令和4年度小中連携 亀田小学校 成果と課題（4教科まとめ）

### 令和4年度小中連携教育 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、確かな学力の定着を図る指導の在り方  
～足立スタンダードを確立し、9年間の学習の連続性を高める～

## 国語

### 【参考】協議の視点

- ① ジャムボードを活用することは、学級全体で一人一人の考えを共有しやすくし、友達との考えの違いに気付いたり、自分の考えを伝え合うことの楽しさを感じたりするために有効であったか。
- ② 全体で考えを整理する前にペア学習を取り入れることは、児童同士が互いの考えを理解し合うことにつながったか。

### 成果

#### ① ICT（ジャムボード）

- ・友達1人1人の意見をじっくり読んで、比較することができていた。
- ・付箋を拡大することができるので、見やすく子供たちが集中していた。
- ・付箋に書かれた内容のまとまりに子供たちが気付きやすい。
- ・指導者も実際の付箋（短冊など）より、グループ分けの作業が簡単にできる。
- ・全員一枚のシートに集約したことで、全員の意見をまとめやすくなっていた。
- ・次時への見通しを自分たちで立てることができていた。
- ・ジャムボードのシートは次時以降の振り返りにも活用することができた。

#### ② ペア学習

- ・教え合うことで自力解決が難しい児童も課題を把握し、自分の考えをもつことができた。
- ・自分の考えや意見を表現することの抵抗感がへった。

#### ③ その他

- ・前時の振り返りにおいて挿絵を活用することで、短時間で詳しく物語の内容を振り返ることができた。

### 課題

#### ① ICT

- ・ジャムボードの背景化や児童の操作権限の変更など、教員のICTスキルを向上させる必要がある。

#### ② ペア学習

- ・話し合う時に1人1台のタブレットを見させたことによって、各自で画面を見ているため、話し合いにくくなっていた。

#### ③ その他

- ・時間が足りなくなり、まとめを板書できなかった。



### 課題に対する手立て

- ① 日常的な活用、OJTで教員のスキルを高めていく。ICT支援員を授業で活用していく。
- ② ペアで1台のタブレットで話し合わせる。
- ③ まとめは板書にこだわらずタブレットを活用した方法を検討していく。

# 算数

## 【参考】協議の視点

- ① Google フォームを使った授業の振り返り、e ライブラリ・AI ドリルを用いた習熟学習などの ICT の活用は、研究主題に迫るための手立てとして有効であったか。
- ② 問題解決学習（足立スタンダード）、ペアでの意見交換、問題提示の工夫は、研究主題に迫るための手立てとして有効であったか。

## 成果

### ① ICT の効果

- ・振り返りでフォームを使用したことによって、ノートよりも早くチェックできた。
- ・児童が書いたホワイトボードを写真に撮り、それをプロジェクターに映すことによって、ホワイトボードをそのまま掲示するだけよりも見やすくなった。
- ・e ライブラリやAIドリルの問題に個々のスピードで取り組むことができた。ICTの活用により習熟度に応じた個別学習が可能となった。

### ② 確かな学力の定着

- ・手作りの具体物を使用した。具体的操作活動は、学力の定着につながった。単元のテストの結果にも現れている。

## 課題

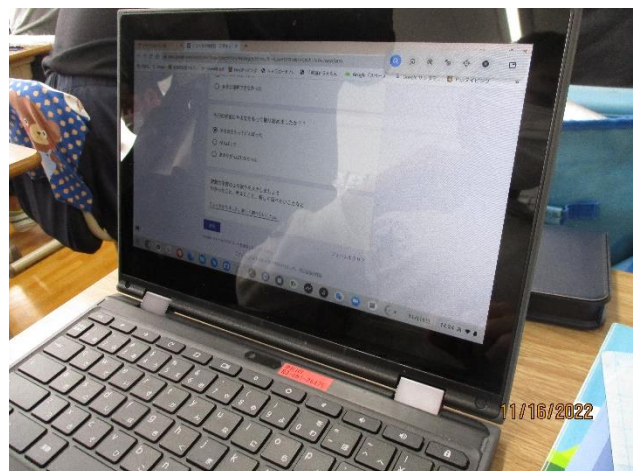
### ① ICT

- ・フォームによる振り返りだと、振り返りの積み重ねがしにくい。

## 課題に対する手立て

### ① ICT

- ・フォームでの振り返りをスライドにはって積み重ねていけるようにする。
- ・スプレッドシートに振り返りを書くことによって、共有できるようにする。



# 社会

## 【参考】協議の視点

- ①全体での考えの交流の前にグループでの活動を取り入れることは、児童同士での主体的で対話的な学習につながったか。(ICTの活用)
- ②足立スタンダードによる問題解決学習の基本型で授業が進められているか。

## 成果

### ① 全体交流前のグループ活動

- ・グループ活動の流れが分かりやすく、型がしっかりと提示されていて、児童が集中でき、効果的であった。
- ・学級のルールが全員に浸透していた。(発表の仕方、返事、座り方、役割分担)
- ・伝えたい、聞きたいという意欲をもって話し合い活動を進めていた。自分で考える意識は大切。

### ②問題解決学習

- ・足立スタンダードにおけるグループでの話し合いの場が設定されていた。

### ③その他

- ・読み取りやすい資料が学習に効果的であった。
- ・発表やまとめ、振り返りなど声掛けが適切であった。児童も学習スタイルが定着しているので、学習内容や形態が替わっても切り替えが上手にできていた。

## 課題

### ①全体交流前のグループ活動

- ・ジャムボードとホワイトボードを両方使った意味は？ホワイトボードでは結局見づらくなってしまった。
- ・自分のグループの意見をまとめたくて、他のグループの発表を聞いていない児童が一部にいた。グループ活動の成果を共有することが必要である。

### ②問題解決学習

- ・全体でそれぞれの班が比較検討できるとよい。今回は発表だけで終わってしまった。「なぜ、そこにその設備があるのか。」など、もっと高められたら良かった。
- ・単元の学習目標を踏まえるなら、本時は「亀田小の消防設備はどのような工夫があるのだろうか。」ではないか。

### ③その他

- ・時間配分を再考したい。本時で最も時間を掛けたいことを精選して展開を考えたい。
- ・振り返りや場面の後半が深まる時間なので、十分に時間を配分したかった。

## 課題に対する手立て

### 【ジャムボードの有効活用に向けて】

#### ①ジャムボード活用の利点

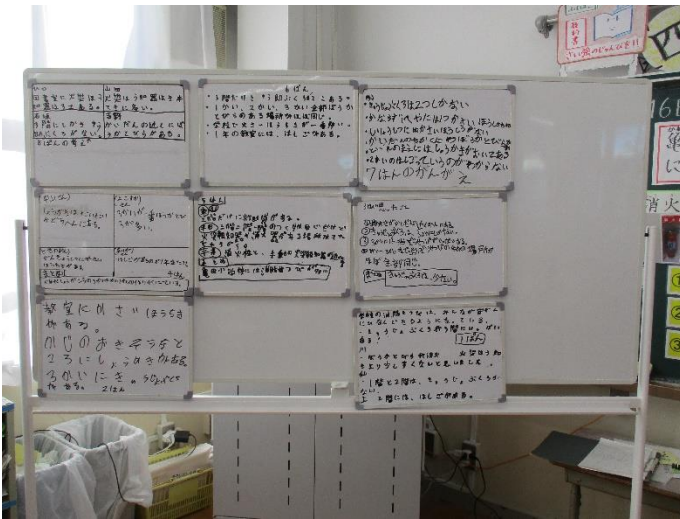
- ・思考ツールを貼りつけて配布することにより、分類、集約、並び替え等の操作を行いながら考えることができる。(本単元での活用例：地図作成の際の●の移動)
- ・同時進行でグループ、個人で作業することができる。(例：同じページに同時に付箋を書き、分類してまとめる。)
- ・全体発表の際、リンクを貼り付けて開かせると、自分のクロームブックの画面で確認できる。

#### ②ジャムボード活用の際の課題

- ・タイピング速度がある程度必要になる。
- ・画面を共有する場合、発表者以外が操作してしまうと上手くいかない。

#### ③課題に対する手立て

- ・タイピングソフト(キーボー島など)を活用し、タイピングの練習をする。
- ・低学年など、タイピングが難しい児童は「手書き入力」でもよい。
- ・授業でジャムボードを使用する際のルールを校内で統一して作成し、低学年のうちから指導を続けていく。(発表の時は画面に触らないなど)



# 体育

## 【参考】協議の視点

- ①Google のジャムボード機能を活用したチーム単位のめあて・振り返りや作成の共有が有効であったか。
- ②チームの特徴に応じた作戦を立てるための言葉掛けが適切であったか。
- ③児童が個人やグループ単位で PDCA サイクルを繰り返すことができるような柔軟な学習過程になっていたか。

## 成果

- ・場をうまく活用（コート間のネット）して運動時間の確保ができていた。
- ・1人に1つボールが用意されているので、様々な運動が可能となっていた。
- ・ジャムボードが有効だった。今までの積み重ねも見えて、教師も変容を見取ることができる。
- ・「ルールを作る→リーグ戦に取り組む」の学習過程の流れが良かった。「チームタイム」の内容や教師の支援も流れに沿って良い方へ変容していった。
- ・「はじいてつなぐ」というバレーボールの特性を味わうことができ、児童の実態にも適したルール作りができていた。
- ・チームの特徴を捉えられていて、その作戦を実行できていた。

## 課題

- ・評価計画があると良い。授業ごとの重点項目を設定することで、指導の重点化にもつながる。



# 教科全体

## 令和5年度に向けた改善策

- 「研究主題」に関しては、諸資料のエビデンスを基に、「教科横断的な視点から9年間の学習の連続性を高め、確かな学力の定着を図る指導の在り方」と設定する。
- 分科会組織は、教科横断的な視点から小中連携の視点深めるべく、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」「豊かな人間性・健康・体力」の4分科会を設定する。
- 分科会でのテーマは、全体のテーマを基にしながら、9年間の流れを考慮し、必要な内容を随時取り入れていく。
- リモートやC4t hによる意見交換、情報共有を積極的に進める。